

# 坪井夏美

## ベートーヴェン& ショーベルト



坪井夏美 (TSUBOI Natsumi) Violin

第12回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞、マイケル・ヒル国際コンクール第4位、フリツ・クライスラー国際コンクール第5位、第81回日本音楽コンクール第3位受賞。ソリストとして読響、都響、新日本フィル、日本フィル、東響、九響、東京フィルなど多数のオーケストラと共に演奏。

東京芸術大学附属高校、同大学、同大学院修士課程を修了。在学時に安宅賞、アカンサス賞、大学院アカンサス賞を受賞し、大学卒業時に皇居内御前演奏会に出演。明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生としてウィーン私立音楽芸術大学修士課程を修了。

青山財団2013奨学生、2014年度ヤマハ音楽奨学生、2015年、2016年ロームミュージックファンデーション奨学生、江副記念財団第44回奨学生。Chanel Pygmalion Days 2018 アーティスト。

NHK東京FM「リサイタル・ノヴァ」、NHK Eテレ「ららラクラシック」、宮崎国際音楽祭等に出演。

これまでに、原田幸一郎、清水涼子、神谷美千子、漆原朝子、ピエール・アモイヤル、堀正文、バヴェル・ヴェルニコフ、樫本大進の各氏に師事。

2019年から2024年まで東京フィルハーモニー交響楽団第1vnファルシュピーラーを務める。2021年4月から2023年3月までベルリンフィルハーモニー管弦楽団・カラヤンアカデミーに在籍し、同管弦楽団の公演に100公演以上出演。

©Peter Adamik

### ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会

第5回

大崎由貴 (OSAKI Yuki) Piano

広島市出身。

第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位)。第5回アルコバッサ国際室内楽コンクール(ボルトガル)最高位、併せてボルトガル作品賞受賞。

ソリストとして東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団等のオーケストラと共に演奏。定期的にソロリサイタルを行う他、弦楽器や管楽器奏者とのアンサンブルでも精力的に活動し、バロックから現代に渡るまでの幅広いレパートリーを開拓している。

広島大学附属高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部をアカンサス音楽賞、藝大クラヴィア賞、同声会賞を受賞し卒業後、渡欧。ジャック・ルヴィエ氏に師事し、ブルック・モーツアルテウム大学修士課程を首席で卒業後、同大学ポストグラデュエート課程を修了。令和2年度文化庁新進芸術家海外研修員。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、愛知県立芸術大学ピアノコースにて非常勤講師を務める。

website : <https://www.yukiosakipianist.com>

Duo Lapis.  
デュオ名、決定! 「デュオ・ラピス」

シリーズ完結。  
ベートーヴェンとショーベルトを  
めぐる旅、感動の最終回

# 大崎由貴

©JUNICHIRO MATSU

2025年  
8月30日(土)

開場 17:30 / 開演 18:00

入場料: 会員4,500円(座席指定可)

一般5,000円(全席自由席)

学生2,500円(全席自由席)



123

Shibuya Mitake Salon (vol.182)



# ベートーヴェン& シューベルト

ヴァイオリンとピアノのための  
デュオ作品全曲演奏会

第5回



123  
Shibuya Mitake Salon (vol.182)

2025年8月30日(土) 開場 17:30/開演 18:00

入場料:会員4,500円(座席指定可)/一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

シリーズ完結。

ベートーヴェンとシューベルトをめぐる旅、感動の最終回へ――

「シリーズものは、回を重ねるごとに深まる、良くなっていく」といった言葉をよく耳にする。もちろん、演奏が回を重ねるたびに「これなれてい」という意味ではない。むしろ、現場はもっと生きしく、そして切実なものだ。予定調和を超えて、演奏が生々しく「剥き出し」になる瞬間にこそ、音楽の真実が立ち上がる。美しいは、常にどこかに危うさを孕んでいる。特にこのサロンのような親密な空間では、演奏者と聴き手とのあいだに「ごまかしのきかない空気」がたしかに存在する。

本シリーズも例外ではなく、ときにぶつかり合い、思うようにいかない場面もあったかもしれない。しかし、その過程こそが、「シリーズに取り組む」ということの重みであり、切実な姿ではないだろうか。きれいごとだけでは、音楽は伝わらないのだ。

坪井夏美と大崎由貴。

“Duo Lapis (デュオ・ラピス)”と名付けられたこのデュオの音楽には、安易な感情の投影も、技巧の誇示もない。

あるのは、作品の精神に真摯に向き合おうとする、ひたむきな意志。

ラピスラズリ（アフガニスタン産の紫色みのある深い青、瑠璃色と称される貴石）のように、静かに、しかし、輝きを放つこのデュオの個性は、常に“真実”を追求する姿勢に裏打ちされている。

リハーサルごとに異なる空気感の中で交わされる真剣な対話。

ときに、違った主張をしあいながらも、ひとつの音楽を創りあげようとするその過程から、音楽づくりの難しさと誠実さが自然とにじみ出ている。

坪井夏美氏は、2023年3月までベルリン・フィルハーモニー管弦楽団カラヤン・アカデミーに在籍し、同団公演に100回以上出演。

東京フィルハーモニー交響楽団第1ヴァイオリン・ファルシビーラーを経て、いま最も注目されるヴァイオリニストのひとりである。

室内楽からオペラまで幅広いレパートリーをもち、その演奏には知性と広い視野、そして抜群のバランス感覚が宿る。

音色は明確な輪郭をもち、曖昧さを排した芯の強さと、磨かれたセンスが光る。

“オーケストラの耳”をもつ彼女ならではの、ハッピさせられる解釈もまた魅力となっている。

ピアニストの大崎由貴氏は、第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位（最高位）、第4回マンハッタン国際音楽コンクールにて特別金賞受賞。

東響、東京フィル、新日フィルなど、国内主要オーケストラとの共演も数多く、ソリストとしても高く評価されている。

彼女のピアノは、大自然の中から湧き上がるような和音の豊かさ、包み込むような音色が印象的だ。

波が寄せては返すようなレンジの広さと、躍動感あふれるダイナミズムは、まさにオーケストラ的な響きを感じさせる。

藝大での同期という関係性、そして留学先での再会が、ふたりの本格的なデュオ活動の原点となつた。

同じビジョンを共有しながら音楽に生命を吹き込むふたりの音は、心地よく、そして洗練されたセンスをもちながらも、鋭さと、熱い対話が漂っている。

互いの個性がときにはピリッと交差し、響き合う様子もまた、このデュオの大きな魅力だ。

『ベートーヴェン&シューベルト ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会』

このシリーズは、サロンという親密な空間で繰り広げられる、“室内楽における壮大な対話の旅”だったようだ。

克己と闘志を内に抱えた人間味あふれる作曲家、ベートーヴェン。

そして、その精神を継ぎながら、さらに先の時代へと橋を架けた“孤独な旅人”シューベルト。

ふたりの作曲家によるヴァイオリン作品をすべて取り上げることで、演奏者にとっても、聴き手にとっても、確かに“何かが見えてくる”旅になつたはずだ。

いよいよ迎えるシリーズ完結『第5回』。

プログラムには、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第6番（Op.30-1）と第10番（Op.96）、そしてシューベルト晩年の傑作『幻想曲 ハ長調 D.934』が並ぶ。

第6番では、若きベートーヴェンの情熱と端正な形式美が光り、この時期のソナタ群に顕著な“室内樂的精神”的成熟がうかがえる。

第10番は、ベートーヴェンが晩年にたどり着いた静けさと透明感に満ちた世界。

劇的な起伏や緊張感を避けながら、音楽そのものが自然体で流れていく。

まるで時空を超えた精神の領域に、そっと触れるような作品である。

そして、シューベルトが最晩年に“到達”したともいえる『幻想曲』。

夢と現実、歌と祈り、孤独と解放。

極めて親密な二重奏の形式のなかで、そうした対極の感情がしなやかに織り込まれ、全体を貫くのは、生の儂さと、その先にある“永遠”への憧憬だ。

本プログラムは、まさにシリーズの掉尾を飾るにふさわしいスケールと深みを備えているといえるのではないか。

そしてそれは、“Duo Lapis (デュオ・ラピス)”の誕生、成長、成熟、深化の証であり、

今回の“旅の帰着”ではあるが、さらなる新たな地平へと開かれていく——その瞬間となるだろう。

(渋谷美竹サロン)



日本のトップクラスの若手演奏家が、  
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さん)が追求する  
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、  
三位一体の努力と対話から生まれます。



誕生。 渋谷駅 徒歩2分  
宮益坂、 クラシック音楽サロン、  
渋谷駅 徒歩2分

Shibuya  
Mitake  
Salon



Shibuya  
Mitake  
Salon

Shibuya  
Mitake  
Salon



●お問い合わせ

株式会社ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日 10:00-18:00)

070-2168-8484 (繋がりにくい場合)

Fax 03(3409)0188



公式Webサイト